

## 一・衛哲書状（折紙）

### 解説

文禄二年（一五九三）、大友義統は朝鮮平壤の戦に小西行長を救援せず秀吉の激怒を受けて除封された。大友家の家臣であった吉岡伝左衛門は、義統除封の際に浪人となっていたらしい。本文書で衛哲なる人物は「当時の儀に候間、何方に「おいても方を得次第、渡世干要に候」と吉岡に仕官を勧めている。近世初期の文書だが、吉岡家宛の為、中世編の末に収めた。